



現代の奴隷労働

十一月半ばNHKB Sで「メイド地獄」という放送があった。サウジアラビアやレバノンにフィリピンやアフリカのスーダンから沢山のメイドが来ている。サウジアレバノンに着くとパスポートやスマホは雇い主に取り上げられる。ともに給料は払われない。セクハラ、暴力があっても誰にも伝えられない。帰国もできない。台所の火事で大やけどをしたら、当面病院に入院させたが、帰国させる。仲介業者は雇い主の名前も明かさない。何の補償もない。

これは現代の奴隷制度。こんなことが罷り通っているのだ。

日本ではどうか？

技能実習生の在留資格と雇用契約は密接に結びついている。この為、雇用主から解雇されたり、自ら辞めると在留資格を失い、帰国となる。来日に際し旅費など数十〜百万円もの借金をしている。帰る訳にはいかない。

ある例では縫製工場深夜まで残業しても時間外賃金は最低賃金以下の時給三百円と云う。溶接の技能実習生の筈が、廃棄物の仕分け作業。文句を云ったら解雇＝帰国になるのでも云えないと云う。まるで奴隷ではないか？

政府の聴取票を野党が調べ直したら、失踪理由は低賃金で、七割は最低賃金以下だと判明した。違法行為として直ちに労基署で対処すべきなのに、政府は何もしていない。

政府が奴隷労働を奨励しているようなものではないか？

あなたはこう思われますか？

昭和三十年代の醤油屋

東京都小金井市関野町

二〇一八年十月



「江戸東京たてもの園」は武蔵小金井の小金井公園にある。古い建物が移築してある。その一つがこの醤油屋。一九三三年（昭和八年）の建築だ。昭和三十年代まで使われていたという。

店には醤油瓶が並んでいる。棚には贈答品用の箱入りのお酒や、ウィスキーの瓶が並んでいる。

昭和二十年後半、醤油を買いに行くと、醤油は一斗（18リットル）程度入る陶製の樽に入れてあった。底近くに木の栓があり、緩めてはお客持参の瓶に入れていた。



絵の店はその数年後だろうか。醤油は底にバルブの付いたホローのタンクに入っていた。



先週はお休みしました

